

「事業の概要及び測量等の実施に関する説明会」質疑応答の概要 (平成21年12月10日(木)成城ホール(砧総合支所1階))

本資料は平成21年12月10日(木)成城ホール(砧総合支所1階)で開催された「事業の概要及び測量等の実施に関する説明会」での質疑応答の概要を国土交通省東京外かく環状国道事務所が取りまとめたものです。

質問者

- ・ 測量、地質調査、井戸調査を実施する業者名と落札額を公表すべきではないか。
- ・ 測量の面積や延長は、いくらか。
- ・ 路線測量を欠いた測量では不十分である。
- ・ 今後の測量の予定はどうなっているのか。

回答者

(国)

- ・ 現在、測量などの業務について契約手続きを進めているところである。契約額は、契約完了後に落札額を公表する予定である。
- ・ 今回は3種類の測量を行う。基準点測量は、現地の地盤の座標を測るもの。地形測量の面積は、約0.45 km²を予定している。地盤高計測は大深度区間で行い、その延長は外環全線で約12kmであり、調査箇所としては60点を予定している。
- ・ 最近の技術では、航空写真から読み取ったデータと、これから実施する測量の結果を合わせることで、地盤の高さが正確に把握できるため路線測量は実施しない。
- ・ 用地取得の段階で、個別に用地測量をさせて頂く。また、工事が始まれば、その中で再度測量を実施するが時期は未定である。

質問者

- ・ 会場が騒がしくて説明が聞こえなかった。説明を真剣に聞きたい人達にしっかり対応する場を設けて欲しい。

回答者

(国)

- ・ 説明会終了後の個別での対応の場で、皆様のご質問、ご要望に対応させて頂く。また、1月にオープンハウスを開催する方向で調整するなど、今後もそのような場を設ける。

質問者

- ・ トンネルからの空気の漏れ出しなどによる大気質への影響はないか。
- ・ 地質調査により何か重大な問題が発見された場合、計画は中止になるのか。

回答者

(国)

- ・ ジャンクション周辺部におけるトンネルからの空気の漏れ出しについては、ジェットファンにより対策をとる予定である。環境影響評価で予測評価しており、環境基準を下回ると見込んでいる。
- ・ また、東京都の環境影響評価条例に基づく事後調査を実施するとともに、必要に応じて追加の保全措置なども検討する。
- ・ 例えば活断層が見つかるなど、致命的な問題が発見されれば計画を見直すことになるが、環境影響評価の調査結果からは、そのようなことは極めて可能性が低いと考えている。

質問者

- ・ 最新の交通需要予測で、外環の利用区間での交通は、元の予測と比べて10万台減少すると聞いている。一方、4月の国幹会議の資料では、外環の交通量を10万台と予測されており、矛盾するのではないか。

回答者

(国)

- ・ 10万台減少と言われているのは、おそらく外環沿線に関係するトリップ数のことであり、外環の利用交通量ではない。なお、10万トリップの減少は、総トリップ数約160万トリップに対して5%位の減少である。

質問者

- ・ 「対応の方針」は、課題検討会での地域住民の意見が全然反映されていないなど問題であり、このまま国が事業を進めるのは、おかしいではないか。
- ・ 本日の説明会が、法的位置づけのあるものではないことを説明するとの約束が果たされていないではないか。

回答者

(国)

- ・ 「対応の方針」は、課題検討会などで頂いた意見を基に、今後、検討すべき課題に対して、事業のどの段階でどのように対応するかを示したものである。今後、事業の各段階で引き続き皆様のご意見を頂きながら詳細に検討する。
- ・ 本日の説明会は、法的位置づけのあるものではない。なお、説明会の位置づけについては、スライドで説明をさせて頂いた。

質問者

- ・ 地下水への影響についてのシミュレーションを行う際、少ない降雨量のデータを使用しているのではないか。

回答者

(国)

- ・ シミュレーションに用いた降雨量のデータについては、説明会終了後の個別にご質問に応じる場で対応させて頂きたい。

以 上